

序

本書は初期研修の2年間で、外科をローテーションする際に役立つマニュアルを意図して制作した。この手のマニュアル本の存在は真新しくないが、その多くは外科医になるために必要な知識や技術について解説しており、外科専門医や外科指導医をめざすためのより高度な内容を含む教科書を簡略化した形でまとめられている。マニュアルゆえにコンパクトさが求められるので、全範囲を網羅しようとする個々の内容が浅くなる傾向は否めず、逆にその道に精通した医師が執筆するので「初期研修医ならばここまで知ってなくてもよいのでは？」という高い専門性にまで言及したのも散見する。

実際のところ初期研修で外科をローテーションする医師のほとんどが、将来外科には進まない。また、外科専門医をめざしている研修医ならば初期研修のうちからレベルの高い内容を求めるので、初期研修医向けと冠したマニュアルにはあまり興味がないであろう。つまり初期研修医が外科をローテーションする際に必要なマニュアル本は外科専門医向けの書籍をレベルダウンしたものでない方がよいことに気づく。

外科に行かないと決めている初期研修医には、ローテーション期間を無難にこなせばよいと考えている向きから、外科系だが消化器一般外科ではないので、手術や周術期管理に必要な知識・技術は学びたいが、消化器外科に特化した術式や知識は求めている人、内科系に進むけれどせっかくローテーションするからには少しでも多くのことを吸収したいと考えている初期研修医まで幅がある。

こういった現状を踏まえて、本書は主な対象者を将来外科（以下、消化器一般外科の意）に進まない初期研修医とした。外科専門医になるために必要な情報ではなく、初期研修の外科ローテーション中にすぐに役に立つ情報を発信することを第一としている。したがって結果的に外科に進む人も知りたい内容になっているはずだ。

内容については、以下の3つをコンセプトとした。

- ①外科研修期間をストレス少なく、快適に過ごすためのサバイバルツールとしての内容
- ②外科以外の科でも必要となる知識・技術なので外科ローテーション中に学んでおけばその後に役に立つ内容

③将来外科に進まなくても、知っている外科にコンサルトするときや、外科治療を受けた既往がある患者さんについての理解が深まるという内容。あるいは外科と症例ディスカッションや合同カンファレンスをする際の基礎知識となる内容

①の内容は第Ⅰ章と第Ⅱ章に含まれる。これを知っておかないと病棟からコールされたときに困る、といった実務的なことから外科に特徴的な仕事習慣、外科医やそのコメディカルに特有な気質や考え方など対人関係にかかわる情報をまとめた(実際、初期研修医にとって最もストレスとなるのは上司やコメディカルとの対人関係であろう)。

②の内容は第Ⅱ章と第Ⅲ章に含まれる。内科系でも行う機会がある手技や処置の方法を解説し、外科系ならば消化器一般外科でなくとも共通する手術室マナーや手術機器の種類とその使い方などについて記した。

③の内容は第Ⅲ章と第Ⅳ章に含まれる。消化器一般外科に特化した内容ではあるが、よく経験する疾患や代表例に限っているのでどの科にいてもこれらの治療歴がある患者さんには必ず遭遇する。患者さんの病態を理解するうえで参考になるはずだ。

そしてこれらの内容は、ベテラン外科指導医が指導したい内容ではなく現役世代からヒアリングすることによって得られた初期研修医の生の声を反映させ、部分的には初期研修医らに執筆してもらっている。つまり、すでに研修医の時代から遠く離れた年配医師から「こうするといいよ」というアドバイスに偏るのではなく、実際に外科をローテーションした同僚の初期研修医から申し送りを受けるような内容を盛り込むことによってより実践的になるように仕上げている。

本書を紐解いていただければ、外科に興味がある人も興味がない人もストレスなく有意義な学習ができることをお約束する。ぜひとも皆さまの外科ローテーションの際のお供として活用していただきたい。

2023年5月

東京ベイ・浦安市川医療センター 外科

窪田忠夫